

岩洞湖畔遺跡群の踏査報告

高木 晃

岩手県立博物館 020-0102 盛岡市上田字松屋敷 34 Iwate Prefectural Museum, Morioka 020-0102, Japan.

はじめに

岩洞湖は盛岡市北東部（旧玉山村）に所在する、北上川の支流丹藤川に建設された人造湖である。湛水開始 1960 年、湖面標高は約 700m、湖水面積は 6.23 km²、湖岸線延長は 40km に達する。ダムの主目的は農業用水であり時季による水位調節が行われる。この地域は老年期山地の特徴が顕著で、湖岸は緩傾斜面が大部分を占めていることから、水位上下動による湖岸線の変動が大きい。水位を下げる夏～秋には場所によって沖に向かって 100m 以上のスケールで湖底が露出する。また、満水位以下は湛水前に表土が除去されており、縄文時代等の遺構、遺物が容易に視認できる（註 1）。

この一帯に縄文時代をはじめとする遺跡が多数分布していることを明らかにしたのは、岩手町周辺の遺跡踏査に情熱を傾けた高橋昭治氏である。氏は 1981 年頃から数年をかけて、水位低下時に露出する湖岸全域を複数回にわたって踏査し、多数の遺跡（遺物採集地点）を発見した。踏査の全容は公表されていないが、西側の細石刃分布地点は「大橋遺跡」と命名され、その内容について高橋ほか（1993）により報告されている。同様に相ノ山南西斜面に位置する細石刃分布地点は武田良夫氏により「相ノ山遺跡」とされ、採集資料は高橋・武田（2018）で紹介された。本稿で報告する岩洞湖 F 遺跡第 1・2 地点に該当する地点である。また、南側の国道沿いに立地する小石川遺跡は武田良夫氏により発見され、1980 年に玉山村教育委員会による発掘調査が行われた結果、チャート製の尖頭器等を含む後期旧石器時代の遺物集中区が検出された（玉山村教育委員会 1982）。

高橋氏等の踏査結果に基づき、盛岡市教育委員会によって湖岸の遺跡分布の見直しが行われ、岩洞湖 A～N 遺跡に大橋遺跡、小石川遺跡を加えた 16 遺跡が台帳登録されることとなり、『盛岡市遺跡地図（2008 年版）』に記載された。これを受けて、北岸で行われた護岸補強工事に伴う岩洞湖 I・H・E 遺跡の記録保存調査が 2016～18 年に（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化

財センターによって実施された。また北岸の市道改良工事に伴う岩洞湖 H・G 遺跡の記録保存調査が 2016～17 年に盛岡市教育委員会によって実施された。ただしこれらの調査では、時期未詳の土坑等が検出された等の結果に留まった（註 2）。

報告者は 2006 年に高橋氏の自宅を訪問した際に氏の採集資料と分布図を実見し、湖岸全域に遺跡が分布していること、採集資料の時期は縄文時代早期から晩期、弥生時代、平安時代、近世～近代と長期間に及ぶことを認識した。合わせて高橋氏から教示を受けた湖岸踏査時の注意点（註 3）等を踏まえ、2006 年度以降、当館考古部門が実施する調査研究の一部として湖岸の遺跡分布調査を行った。

以下、2006・2007 年、2024・2025 年に複数回に分けて実施した踏査記録と採集資料の紹介を行い、遺跡立地の傾向等について若干の考察を加える。



図 1 岩洞湖の位置

1 踏査地点の現況と採集資料

(1) 岩洞湖 E 遺跡

北西部の東岸北半一帯から旧野田街道沿いに東に伸び、大橋川流入地点の入り江から大橋遺跡対岸にかけての部分が主要範囲である。湖岸線では県埋蔵文化財センターにより 2018 年に護岸工事に伴う緊急調査が行われている（岩手県文化振興事業団 2019）。報告者は 2006 年 9 月、2024 年 9 月に踏査を実施した。

< 第 1 地点 >

大橋川流入地点の入り江付近に広がる緩斜面で、遠浅状に湖岸線が約 100m 後退する。斜面中央に黒色土層が広く分布し、中央部の凡そ 30m 程の範囲で縄文時代前期初頭～前葉、後期初頭土器が散在する。他地点より遺物密度が大きく、遺物包含層の一部が露出している状態と捉えられる。

採集資料は縄文土器 14 片があり、このうち 12 点 8 個体を掲載した（1～8）。1～3 は縄文前期初頭、4～8 は縄文中期末～後期初頭に位置づけられる。1 は平坦な口唇部の土器片で口縁上端と下部に綾絡文が巡る。胎土には繊維が多量に混入される。2 も同様に綾絡文が多段に施される胴部破片。3 は 3 片同一個体の深鉢胴部破片で、0 段多条 LR・RL 縄文の組み合わせで羽状縄文を施し一部は菱形状の構成となる。4 は小型の突起を持つ口縁部破片で、沈線による横長の楕円形モチーフを連ね縦位回転の縄文を一部磨り消す。5 は口唇部が短く外反する縄文縦位回転の口縁部片。6 は図示した破片を含めて同一個体 5 片が確認できる。波頭状のモチーフを繰り返し横位に展開する沈線文が縦位回転縄文上に施文される。胴部が内湾し頸部がすぼまる器形である。

< 第 2 地点 >

第 1 地点の南側、やや傾斜が強くなる西向きの斜面で、露出している褐色土層面に黒色土の溝状遺構プランが 10 カ所以上認められる。規模は長 2～3m、幅 0.5m 前後であり、いずれも縄文時代の溝状陥し穴と考えられる。遺物は採集していない。

< 第 3 地点 >

岩洞湖 E 遺跡と大橋遺跡を画する沢の北岸緩斜面一帯で、旧野田街道痕跡が明瞭に残る。汀線から東に向かい地山褐色粘土層を幅 3m 程度で掘り込んだ浅い掘り込みが直線的に伸びており、大部分は砂で埋没している。この街道跡に面して民家跡と推測される建物跡が確認される。建物跡は 5×20m 大の長方形で直立する丸木が並んでおり、柱根の残存部分と考えられる。遺物は民家跡周辺を中心とした一帯に染付型紙刷、染付銅板転写、陶器播鉢、戦前の DAINIPPON ビール瓶等、幕末から近代にかけての資料が散乱する。

< 第 4 地点 >

第 3 地点から東方の大橋一里塚に向かって少し進んだ地点で、キャンプ場方面から流入する小沢の入り江付近、南向き緩斜面である。図示した弥生土器片（9）と剥片石器（10）を採集した。9 は薄手で外反する甕口縁部で、緩い波状口縁と捉えられる。体部の縄文施文後に横走する沈線が複数頸部に巡る。内面上部にも同一原体による縄文帯が施される。弥生時代後期赤穴式に相当する資料である。10 は素材剥片の腹面側に連続する細かい二次加工を施した不定形石器。石材は黒色の頁岩を使用する。

(2) 岩洞湖 F 遺跡

湖面中央部、相ノ山南斜面一帯に立地する。この一帯での湖岸傾斜は比較的強く、湖面露出範囲は 50m 程度である。山地から数本の小沢が流入する。2024 年 9 月に踏査を実施した。

< 第 1 地点 >

相ノ山山頂西側から南西方向に流れ下る小沢が湖岸に流入する地点にあたり、湖岸から小沢東岸にかけて分布する黒褐色土中に遺物が散在する。採集遺物は比較的多く、縄文土器 8 点、剥片石器 3 点がある。

図示した縄文土器 6 点のうち、11～13・15 は縄文時代前期初頭～前葉、14 は縄文時代前期後葉、16 は縄文時代中期末～後期初頭の土器片である。14 は丸紐状の

表 1 踏査地点一覧

遺跡名	岩洞湖 E 遺跡				岩洞湖 F 遺跡			岩洞湖 H 遺跡				岩洞湖 J 遺跡	岩洞湖 K 遺跡		小石川遺跡	
	第 1 地点	第 2 地点	第 3 地点	第 4 地点	第 1 地点	第 2 地点	第 3 地点	第 1 地点	第 2 地点	第 3 地点	第 4 地点	第 1 地点	第 1 地点	第 2 地点	北未登録	
沢	至近距離		至近距離	至近距離	至近距離		至近距離	至近距離	至近距離	至近距離	至近距離	至近距離	至近距離	至近距離	至近距離	至近距離
縄文前期	◎				◎	○	○	○			○		◎			○
縄文後期	◎				○		○					○	○			○
平安											○	◎			◎	
その他		溝状陥し穴	近世～近代	弥生後期		石核・剥片		弥生前期		弥生前期	弥生前期	縄文中期末				

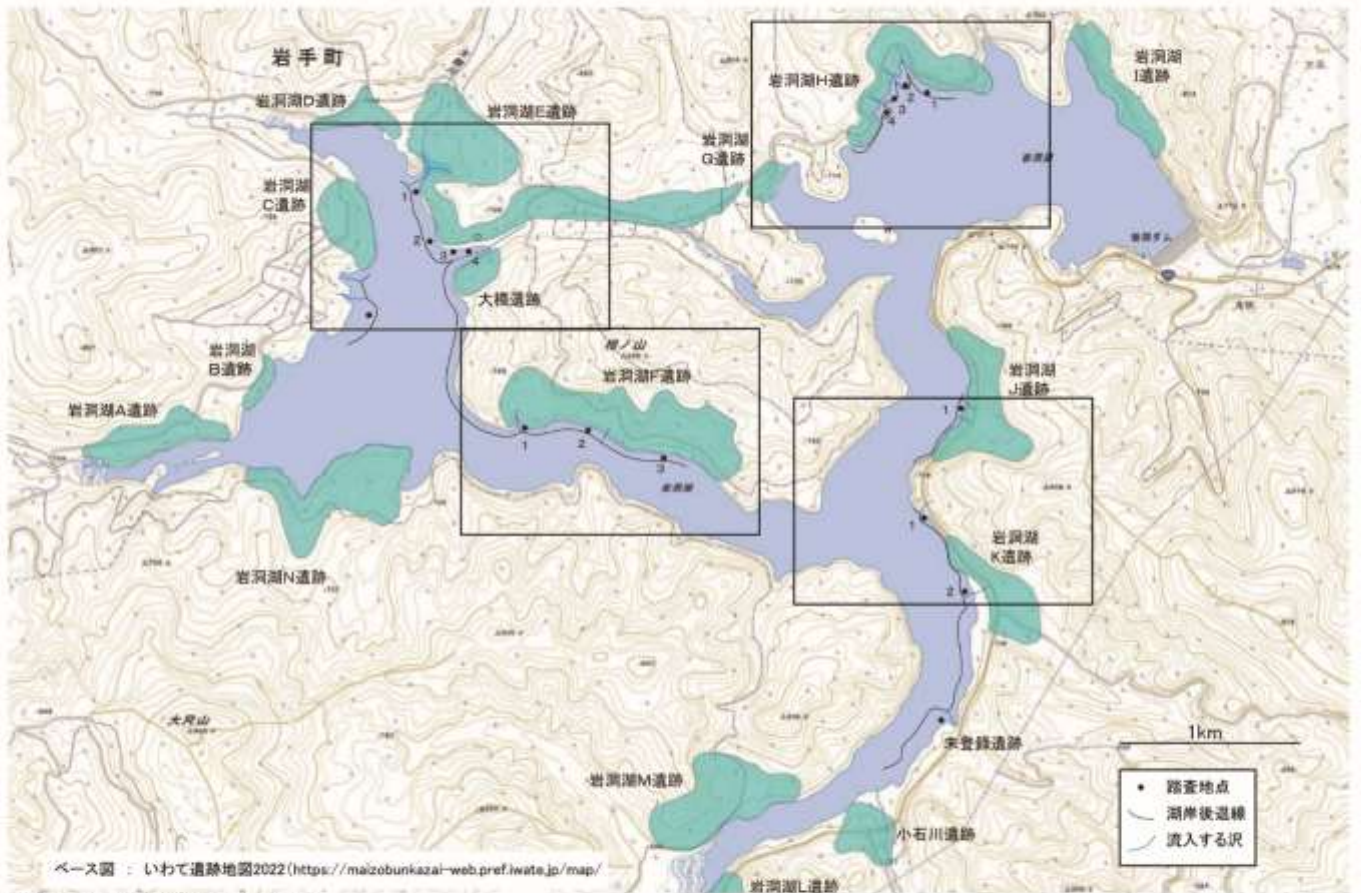


図2 岩洞湖畔遺跡群全体図



図3 岩洞湖E遺跡周辺拡大図



図4 岩洞湖F遺跡周辺拡大図

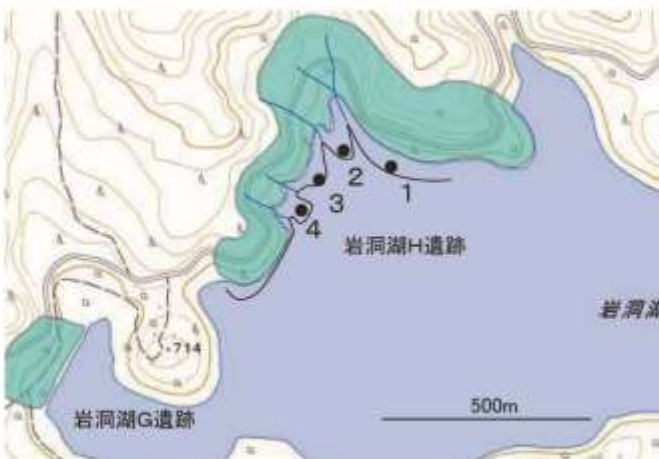


図5 岩洞湖H遺跡周辺拡大図



図6 岩洞湖J・K遺跡周辺拡大図

垂下する隆線の上から縄文が加えられる。15の平底底部破片は体部と底面に同一原体の撚糸文を施文する。17は片方の基部を欠損する凹基石鏃。18は素材剥片の末端背面に二次加工を施す。両側縁に微細剥離痕が連なる。19は短冊形に整形されたエンドスクレイパーで基部側を欠損する。末端と両側縁に急角度の二次加工がなされる。図示した剥片石器は全て頁岩製である。
 <第2地点>

第1地点から500mほど東に進んだ場所で、崖錐性堆積物と推測される礫層が緩斜面に露出しており、上下に褐色粘土層が分布する。地表面の数カ所に黒褐色、青灰色等の剥片、石核がまとまっており、全体として20m程の範囲に広がる。高橋・武田(2018)の「相ノ山遺跡」と同一地点と思われるが、同報告で「クリームパミス」と記載のあるテフラは確認できなかった。

縄文土器1点、石核2点、剥片6点を採集した。縄文土器は繊維を含む前期初頭段階の小片である。剥片と石核の外観は同系色の頁岩であり、同一母岩の可能性もあるが接合資料は見受けられない。サイズは全長5~12cm前後で形状は一定せず、剥片剥離には規則性は見いだせないことから、原礫表皮を除去する粗割作業段階で生じた剥片と残核と考えられる。

<第3地点>

第2地点から更に東に500mほど離れた南向き緩斜面で、相ノ山山頂南東から流下する小沢の流入点付近に位置する。黒褐色土から褐色土への漸移層が広がり、縄文土器片2点(21・22)を確認した。21は横位のLR縄文を施し胎土に繊維を含む縄文前期初頭土器、22は縦位の単節L縄文を施文した中期末~後期初頭土器片である。

(3) 岩洞湖H遺跡

北東部の北岸一帯で、流入する小沢により湖岸線の出入りが顕著な部分である。沢に区画された舌状の張り出しが複数並列、隣接しており、東から第1~4地点と捉えた。2006年9月、2024年9月に踏査した。また、2017年には県埋蔵文化財センターによる護岸工事に伴う緊急調査が行われている(岩手県文化振興事業団2018)。

<第1地点>

北岸の東側にあり、尾根から落ち込む斜面の黒色土が露出する部分で約20mの範囲に遺物が散在する。汀線は50m程度後退している。10点余りの土器片と剥

片1点を採集した。縄文前期初頭土器1点の他は弥生時代前期に比定される。

23はいわゆる「ピッチリ縄文」と呼称される組縄原体を施した体部破片。24~27は変形工字文を構成すると考えられる横位の平行沈線が施された鉢・浅鉢形土器の小片、28・29は同時期の鉢形土器体部下半の破片と考えられる。いずれも節の細かいLR縄文が施される。30は頁岩製の剥片である。

<第2地点>

湖岸に流入する2本の沢に挟まれた緩い尾根状の緩斜面に立地する。突端は汀線が100m程後退している。中央部の平坦面に遺構プランと考えられる円形の変色部分を確認した。直径3m強の黒色土とその外縁を帯状に乾燥部分、暗褐色土部分が取り囲む。隣接する第1・3地点の採集遺物から判断して、縄文晩期末~弥生時代初頭の堅穴の可能性があると推測される。第2地点では採集遺物はない。

<第3地点>

第2地点と小沢を隔てた南東向きの斜面で、緩く尾根状になった平坦面に方形の遺構プランを1カ所確認した。規模は1辺3~4m程で、中央に黒褐色土、周囲に乾燥部分と黒色土・褐色土が帯状に取り囲む。形状から古代の堅穴の可能性が高いと考えられる。北東隅に30~50cm大の角礫が複数集中しておりカマド構成礫と推測されるが、被熱痕は確認できない。また遺構上面では採集遺物はない。

本地点は南東部の斜面下方側に遺物が散在する。縄文前期初頭、後期中葉、晩期末~弥生初頭土器片、剥片、平安時代土師器坏破片、甕破片がある。32は口唇端面に刻みを連続させる縄文後期中葉の鉢形土器口縁部。33は小型の壺口縁部で、頸部の接合面から剥落している。口縁外面が肥厚し平行沈線が加えられ、弥生時代前期初頭に比定される。38は直線的に開く土師質の坏破片で、内面黒色処理、ミガキ調整を行わない「あかやき土器」である。他に非ロクロ土師器甕体部破片を複数採集した。

<第4地点>

第3地点から1本の沢を隔てて西側も小沢に区画された舌状の緩斜面で、100m以上の広さを持つ平坦面となっている。全域にわたって古代の堅穴と考えられる方形の遺構プランが分布する。不確実なものを含めて7棟程を確認した。規模は大きめのもので1辺5m前後、小型では3~4m程で、黒色土主体の埋土に雑草が

繁茂する。上面に平安時代 9～10 世紀代の土師器小片が散乱している。複数のプランではカマドが設置されていたと思われる部分が 1m 規模の楕円形に攪乱を受けている。カマド残存資料を狙った盗掘痕跡かと思われる。採集遺物は土師器片が大部分で、他に弥生土器片 (39) がある。

39 は粗製鉢形土器口縁部で LR 縄文を施す。41～43 は非ロクロ土器甕口縁部破片。44～45 は底縁が張り出す甕底部破片である。

(4) 岩洞湖 J 遺跡

東岸中央部に広がり、848.5m 三角点から北西に流下する沢沿いの緩斜面を中心とした一帯である。2024 年 9・10 月に踏査した。

< 第 1 地点 >

J 遺跡中央部にあたり、前述の沢が湖岸に流入する地点の北西向き緩斜面に立地する。北側にももう 1 本の小沢があり、これらに挟まれた黒色土が広く露出する面で縄文時代中期末、同後期中葉土器片を採集した。

46 は鉢形を呈する薄手の口縁部破片で、口縁上方に突き起こしを連続させた刺突列点が巡る。口唇端部が角張る状態と合わせて縄文後期後葉瘤付土器と判断した。47 は外反する体部破片で細い S 字状沈線による縄文区画が展開する縄文中期末大木 10 式土器である。

(5) 岩洞湖 K 遺跡

東岸中央部にあり南東の標高 1041.9m 三角点から北西に流下する沢の合流点付近緩斜面に広がる。なお、遺跡地図に搭載された範囲は湖岸線からやや内陸側に偏るが、今回確認した第 1・2 地点とも後退した汀線際に位置する。2024 年 9・10 月、2025 年 9 月に踏査した。

< 第 1 地点 >

遺跡地図上の K 遺跡北端から 200m 程離れる南西斜面に立地する。東方の 848.5m 三角点から流下する沢の合流点付近に広がる黒色土面に縄文時代前期前葉、中期末土器片が散乱する。2024 年 9・10 月に踏査した。

48 は直線的に開く器形の深鉢形土器で、接合しない同一個体の数片を採集した。口唇部から全面に LR 縄文が横位回転で施され、胎土には繊維を多く含む。48a の口縁部破片には補修孔がある。49 はおそらく縄文のみが施された深鉢体部破片で、縄文施文の状態等から中期末～後期初頭に比定される。LR 縄文を縦位回転す

る。50 は頁岩製の平基石鏃で先端部を欠損する。

< 第 2 地点 >

南東部の極緩斜面に立地する。冬季のワカサギ釣り拠点として整備された駐車場付近にあたる。東側山地から流入する小河川が三角州状の平坦面を形成しており 100m 以上の範囲で湖底が露出する。平坦面に 1 カ所の隅丸方形を呈し雑草が繁茂した遺構プランを確認した。規模は 3～4m 四方で、表面から土師器・須恵器破片を採集しており古代堅穴と判断される。

51 はロクロ整形土師器甕の頸部破片。52 は土師質坏体部破片で所謂あかやき土器である。53 は須恵器坏口縁～底部破片で器形は図上復元した。底面は回転糸切り無調整。54 は同じく須恵器坏破片で、灰白色を呈する。これら 4 点とも遺構プラン上面に散乱していたものである。

(6) 小石川遺跡北隣接未登録遺跡

岩洞湖 K 遺跡と小石川遺跡の中間付近にあり、南東の 909.1m 三角点から北西に流下する小沢の合流点付近で確認した。沢沿いにはほぼ平坦な黒色土面が広がっており、このうちの 1 カ所に遺物が散在している。

55 は紐状の原体を用いたいわゆる S 字状連鎖沈文が施された縄文時代前期中葉の大木 2b 式土器で、同一個体数片が散乱していた。56 は繊維を含む非結束羽状縄文の前期中葉土器片。57 は底部から体部立ち上がり部分の無文破片で、底縁がわずかに張り出す特徴から縄文後期後半段階と想定される。

2 踏査遺跡の傾向

(1) 時期

今回の踏査結果では縄文時代前期初頭～近代にかけて幅広い時期の資料を確認した。この中では岩洞湖 E 遺跡第 1 地点、K 遺跡第 1 地点に顕著なように、縄文前期初頭～前葉、同中期末～後期前葉の資料が地区を問わず満遍なく分布する。前述した高橋昭治氏による湖岸全域の採集資料においても、縄文時代早期中葉、同前期前葉、同後期初頭～前葉、同晩期後葉～弥生時代前期、平安時代の資料が大半を占め、一部地点で縄文時代中期中葉、弥生時代後期の資料が含まれる状態であった (註 4)。今回の踏査結果と概ね同一であり、岩洞湖畔遺跡群全体の傾向を示すものと捉えられる。また、縄文～弥生時代の遺物採集量を見れば、単なる「遺物散布地」ではなく付近に一定数の集落が営まれ

ていた可能性が高いと考えられる。

この状況が北上山地中央部で一般的に見られるものか、あるいはこの地域に特有の傾向なのか、局所的な検討材料しかないため現時点では言及ができないが、北上川流域の平野部も含めた広域的な視点に立って調査すべき事項と考えられる。

(2) 遺構・遺物確認地点の立地傾向

縄文時代の遺物を採集した 15 カ所のうち、87%にあたる 13 カ所は湖岸に流入する沢に隣接している。水流から 10m 内外に遺物分布範囲が位置する状態である。単純に見れば、当時の生活の場として水利用の容易さという点から沢沿いの立地が選択されていたという推定が可能である。

一方、これらの沢沿いでは通常の斜面地に比較して概ね黒色土が厚く残存しており、工事に先立つ表層除去による遺物流出散逸の影響を受けにくかったという可能性も残る。本来の立地なのか、環境要因による見かけ上の事象なのか決め手を欠いており、未踏査の地点も含めて再度検討の余地がある。

3 課題と展望

今回報告した踏査地点は 8 遺跡 16 カ所であり、未踏査の岩洞湖 A~D・I・L~N 遺跡を含めた全体の傾向を把握するには到っていないため、引き続き湖岸の踏査を進める。特に、岩洞湖 H 遺跡第 3・4 地点、同 K 遺跡第 2 地点での古代遺構の確認は、高地かつ寒冷地であるこの地における生業活動等の実態に迫ることのできる要素であり注目したい（註 5）。

更に付記すれば、岩洞湖畔での濃密な遺跡分布状況は偶然諸条件が重なったことによりその把握が可能となったもので、特別この地域に遺跡が集中的に営まれたとは考えにくい。言い換えると、広大な北上山地の各所において同様の遺跡分布を想定することは充分可能である。とするなら、開発行為が及ばない地域にも未知の遺跡が相当数存在する可能性を踏まえ、行政的な観点からは埋蔵文化財保護業務運用面での留意点、学問的な観点からは見かけ上の遺跡分布を前提として議論を行う意味について充分考慮を加える必要がある。

註

- 1 岩洞ダムは、後年システム化される埋蔵文化財保護体制が整う以前の 1960 年に竣工しており、遺跡分布調査、

記録保存調査は実施されていない。

- 2 これらの他に、岩手県文化振興事業団（2018）では調査区周辺（岩洞湖 H 遺跡第 1~4 地点に相当）における表採資料が紹介されている。また岩手県文化振興事業団（2019）では調査区周辺（岩洞湖 E 遺跡第 2・3 地点に相当）で露出している遺構の分布図が掲載されている。
- 3 湖岸へのアプローチルート、歩行困難な沼地や岩場の位置、クマを複数回目撃した地点等の情報をいただいた。
- 4 高橋氏の採集資料全体を実見した印象による。
- 5 この点での具体的な検討材料を得る目的で、2025 年度から岩手県教育委員会と合同で岩洞湖 H 遺跡第 4 地点の発掘調査を実施中であり別途報告を予定している。

引用文献

- 岩手県文化振興事業団 2017「岩洞湖 I 遺跡」『平成 28 年度発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 676 集 27-30
- 岩手県文化振興事業団 2018「岩洞湖 I・H 遺跡」『平成 29 年度発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 692 集 5-20
- 岩手県文化振興事業団 2019「岩洞湖 E 遺跡」『平成 30 年度発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 708 集 7-10
- 高橋昭治・武田良夫・熊谷常正 1993「岩手県岩洞湖大橋遺跡の石器群—北上山地の細石刃資料—」岩手考古学 5: 27-36
- 高橋昭治・武田良夫 2018「附章 相ノ山遺跡採集資料」『岩洞湖遺跡群』盛岡市教育委員会 13-21
- 玉山村教育委員会 1982『小石川遺跡』文化財調査報告書 9
- 盛岡市教育委員会 2009『盛岡市遺跡地図（2008 年版）』
- 盛岡市教育委員会 2018『岩洞湖遺跡群—市道一の渡岩洞湖線改良工事に伴う緊急発掘調査報告書—』

要 旨

岩洞湖畔に分布する遺跡群の踏査報告である。縄文時代から近代にかけての多様な遺跡が見られる。特に縄文前・後期、平安時代の遺跡が多い。

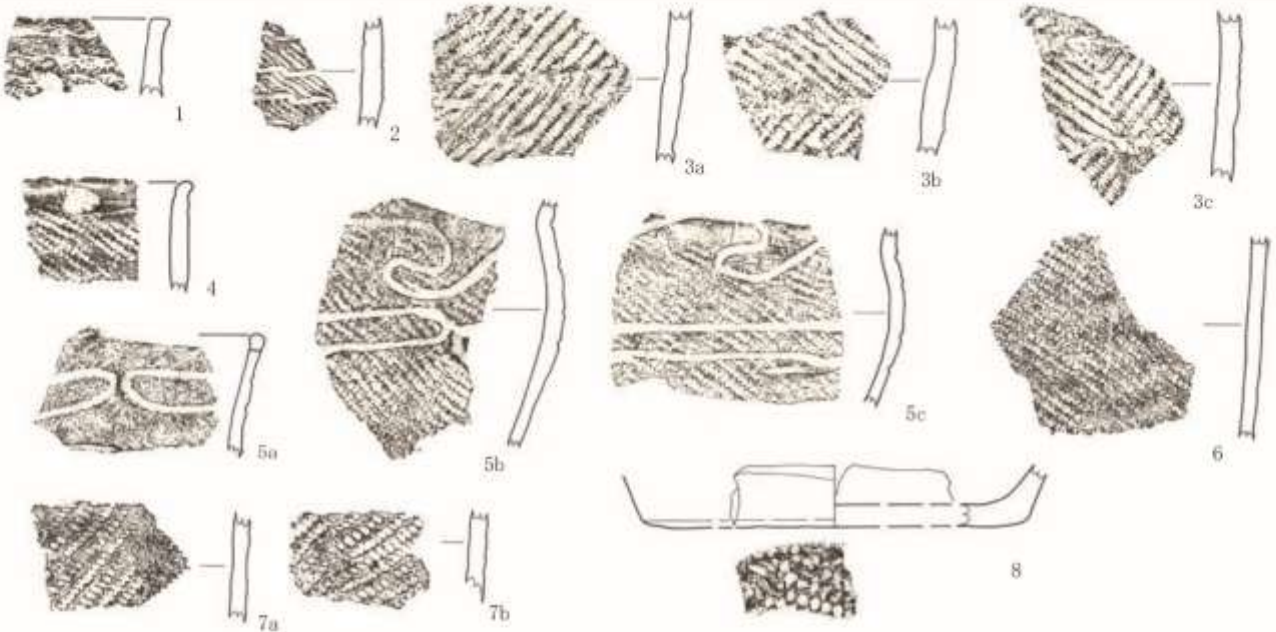
キーワード：岩洞湖畔 縄文前期 縄文後期
平安時代 高地

本稿脱稿後に高橋昭治氏の訃報に接しました。いただいた数多くの学恩に感謝し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

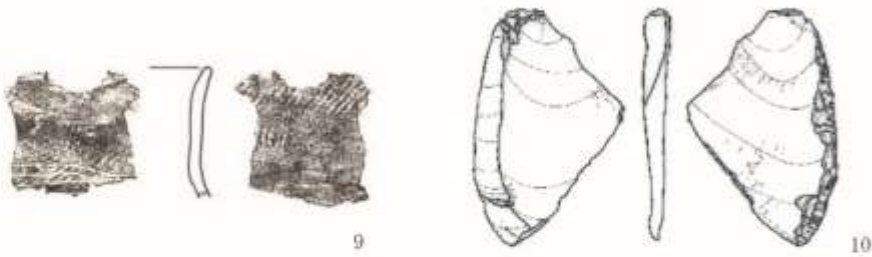
表2 遺物観察表

図	採集地点名	登録番号	種類	数	特徴
1	E-第1地点	89897	縄文土器(前期)	1	深鉢口縁部,前期初頭,綾絡文,織維含,口唇部平坦
2	E-第1地点	89898	縄文土器(前期)	1	前期初頭,綾絡文,織維含
3	E-第1地点	89899-89901	縄文土器(前期)	1	前期初頭,非結束羽状縄文(LR0段多条・RL0段多条),織維含,3片同一個体
4	E-第1地点	89907	縄文土器(後期)	1	深鉢口縁部,後期初頭,LR縄文(縦位回転)
5	E-第1地点	89902-89906	縄文土器(後期)	1	後期初頭,深鉢口縁部,突起,沈線文,LR縄文(縦位回転),5片同一個体
6	E-第1地点	89905	縄文土器(後期)	1	後期初頭,LR縄文(縦位回転)
7	E-第1地点	89908-89909	縄文土器(後期)	1	後期初頭,RL縄文(縦位回転),2片同一個体
8	E-第1地点	89910	縄文土器(後期)	1	深鉢底部,底面網代痕
9	E-第4地点	89911	弥生土器(後期)	1	壺口縁部,沈線,内面LR縄文
10	E-第4地点	89912	不定形石器	1	腹面側に二次加工,頁岩
11	F-第1地点	184878	縄文土器(前期)	1	前期初頭,口縁部,多段綾絡文,織維含
12	F-第1地点	184881	縄文土器(前期)	1	前期初頭,口縁部,LR縄文(横位回転),織維含
13	F-第1地点	184880	縄文土器(前期)	1	前期初頭,結束1種羽状縄文,織維含
14	F-第1地点	184882	縄文土器(前期)	1	前期後葉,隆帯,LR縄文(横位回転),織維含
15	F-第1地点	184879	縄文土器(前期)	2	前期初頭,底部,胴部底面燃糸文,織維含
16	F-第1地点	184877	縄文土器(後期)	2	後期初頭,網目状燃糸文,2片同一個体
17	F-第1地点	184883	石鏃	1	凹基無茎石鏃,頁岩
18	F-第1地点	184885	スクレイパー	1	刮片末端二次加工,側縁微細刺痕,頁岩
19	F-第1地点	184884	スクレイパー	1	刮片末端・側縁二次加工,頁岩
20	F-第2地点	184886	縄文土器(前期)	1	前期初頭,LR縄文(横位回転),織維含
21	F-第3地点	184889	縄文土器(前期)	1	前期初頭,LR縄文(横位回転),織維含
22	F-第3地点	184890	縄文土器(後期)	1	後期初頭,LR縄文(縦位回転)
23	H-第1地点	89860	縄文土器(前期)	1	前期初頭,ビッチリ縄文,織維含
24	H-第1地点	89862	弥生土器(前期)	1	弥生初頭,平行沈線
25	H-第1地点	89863	弥生土器(前期)	1	弥生初頭,平行沈線
26	H-第1地点	89864	弥生土器(前期)	1	弥生初頭,平行沈線,LR縄文
27	H-第1地点	89861-89865	弥生土器(前期)	1	弥生初頭,沈線,LR縄文,2片同一個体
28	H-第1地点	89867	弥生土器(前期)	1	弥生初頭,LR縄文(縦位回転),炭化物付着
29	H-第1地点	89866	弥生土器(前期)	1	弥生初頭,LR縄文(縦位回転)
30	H-第1地点	89871	刮片	1	頁岩
31	H-第3地点	89872	縄文土器(前期)	1	前期初頭,ビッチリ縄文,織維含
32	H-第3地点	89874	縄文土器(後期)	1	後期中葉鉢口縁部,口唇部連続刻み,内面稜線
33	H-第3地点	89873	弥生土器(前期)	1	弥生初頭,壺口縁部,外面肥厚平行沈線
34	H-第3地点	89878	弥生土器(前期)	1	LR縄文
35	H-第3地点	89875	弥生土器(後期)	1	LR縄文
36	H-第3地点	89877	弥生土器(前期)	1	LR縄文
37	H-第3地点	89876	弥生土器(前期)	1	LR縄文
38	H-第3地点	89881	土師器(平安)	1	あかやき坏口縁部,ロクロ
39	H-第3地点	89882	刮片	1	鉄石英
40	H-第4地点	89883	弥生土器(前期)	1	鉢口縁部,LR縄文
41	H-第4地点	89885	土師器(平安)	1	壺口縁部,ヨコナデ,非ロクロ
42	H-第4地点	89886	土師器(平安)	1	壺口縁部,ヨコナデ,非ロクロ
43	H-第4地点	89884	土師器(平安)	1	壺口縁部,ヨコナデ,非ロクロ
44	H-第4地点	89895	土師器(平安)	1	壺体部,ケズリ,非ロクロ
45	H-第4地点	89894	土師器(平安)	1	壺底部,ケズリ,非ロクロ
46	J-第1地点	184894	縄文土器(中期)	1	大木10式胴部,S字状文LR縄文充填,外面皮膜状付着
47	J-第1地点	184895	縄文土器(後期)	1	後期後葉附付土器口縁部,突起・コシ刺突
48	K-第1地点	184892	縄文土器(前期)	3	前期初頭,口縁部,LR縄文(横位回転),織維含,3片同一個体,補修孔
49	K-第1地点	184891	縄文土器(中期)	1	中期末,LR縄文(縦位回転),4片接合
50	K-第1地点	184893	石鏃	1	平気無茎,頁岩,先端欠損
51	K-第2地点	184896	土師器(平安)	2	ロクロ整形壺頸部・胴部破片
52	K-第2地点	184897	土師器(平安)	1	あかやき坏胴部破片
53	K-第2地点	184899	須恵器(平安)	1	坏口縁部~底部破片,内面線刻状傷,底面回転糸切後再調整,口径13.2cm
54	K-第2地点	184898	須恵器(平安)	1	坏口縁部破片,白色
55	小石川遺跡-第1地点	184900	縄文土器(前期)	1	大木2b式胴部,S字状連続沈文,2片接合
56	小石川遺跡-第1地点	184902	縄文土器(前期)	1	胴部片,非結束羽状縄文(L,R,RL),織維含
57	小石川遺跡-第1地点	184901	縄文土器(後期)	1	無文底部片,上げ底,底径12cm

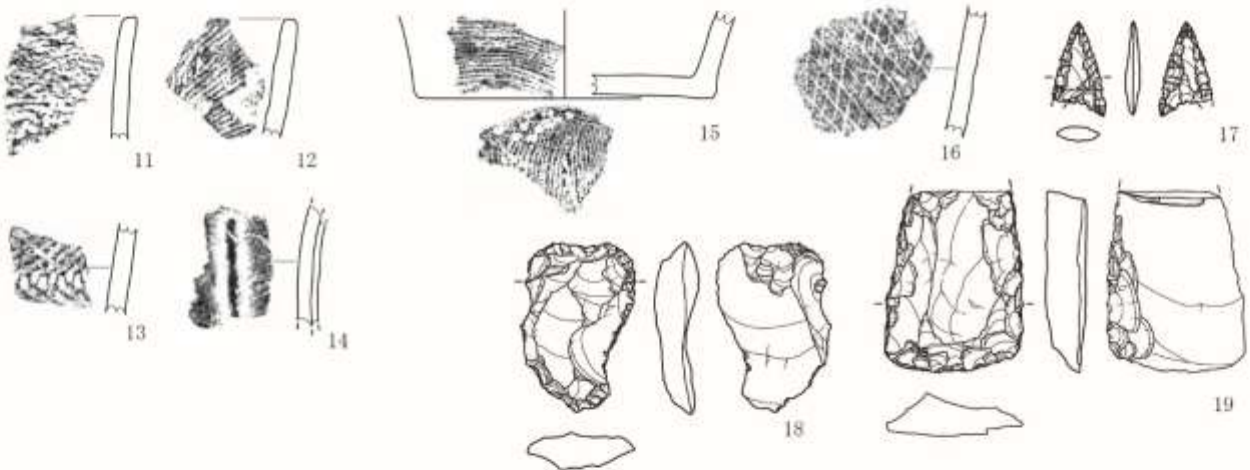
岩洞湖E遺跡-第1地点



岩洞湖E遺跡-第4地点



岩洞湖F遺跡-第1地点



岩洞湖F遺跡-第2地点



岩洞湖F遺跡-第3地点

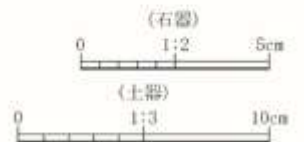
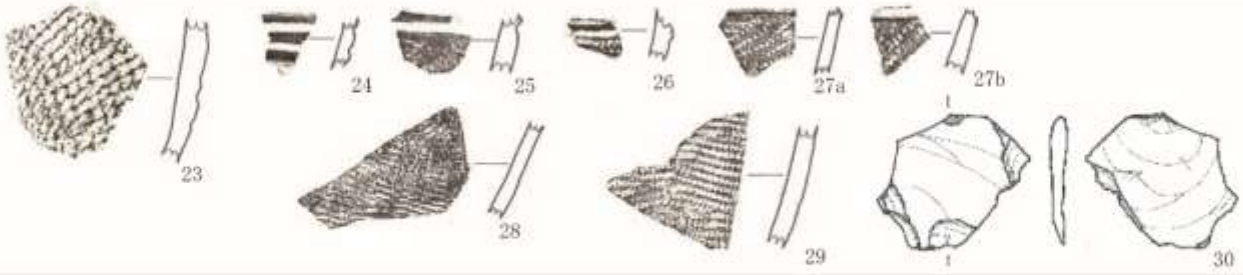
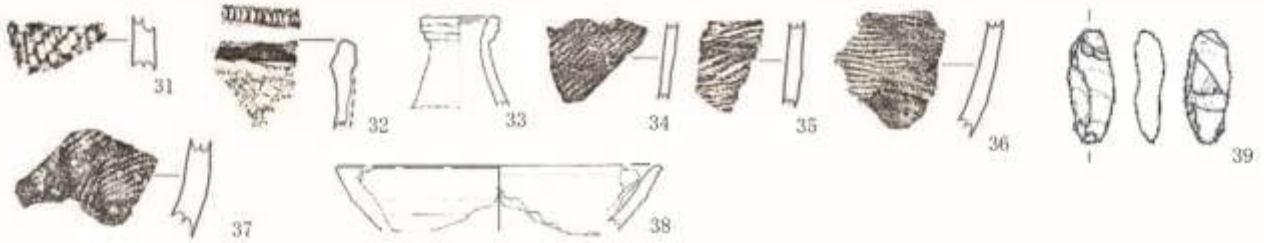


図7 出土遺物 (1)

岩洞湖H遺跡-第1地点



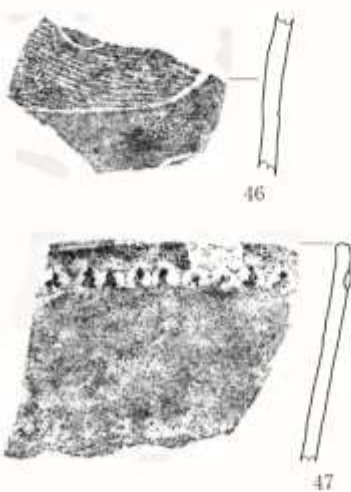
岩洞湖H遺跡-第3地点



岩洞湖H遺跡-第4地点



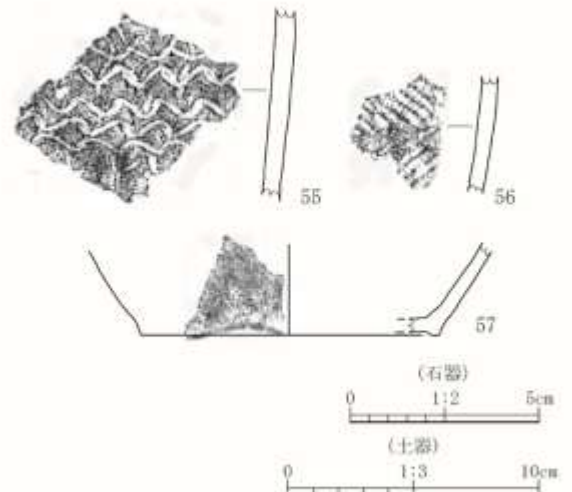
岩洞湖J遺跡-第1地点



岩洞湖K遺跡-第1地点



岩洞湖小石川遺跡隣接地



岩洞湖K遺跡-第2地点

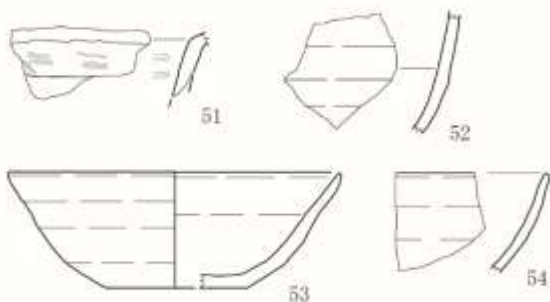


図8 出土遺物 (2)



写真1 岩洞湖E遺跡第1地点 縄文前期-後期土器分布



写真2 岩洞湖E遺跡第1地点 最も汀線が後退する地点



写真3 岩洞湖E遺跡第2地点 複数の溝状落とし穴分布



写真4 岩洞湖E遺跡第3地点 中央に旧街道沿い生け垣跡



写真5 岩洞湖F遺跡第1地点 流入する沢沿いに遺物分布



写真6 岩洞湖F遺跡第2地点 崖錐堆積物斜面に剥片分布



写真7 岩洞湖F遺跡第2地点 剥片散在



写真8 岩洞湖F遺跡第3地点 中央沢沿いに遺物分布



写真9 岩洞湖H遺跡第1地点 緩斜面に弥生時代遺物分布



写真10 岩洞湖H遺跡第2地点 円形の遺構プラン確認



写真11 岩洞湖H遺跡第3地点 方形の遺構プラン確認



写真12 岩洞湖H遺跡第3地点 方形遺構プラン拡大



写真13 岩洞湖H遺跡第4地点 方形の遺構プラン複数分布



写真14 岩洞湖H遺跡第4地点 方形遺構プラン拡大



写真15 岩洞湖J遺跡第1地点 沢流入地点緩斜面に遺物分布



写真16 岩洞湖J遺跡第1地点 縄文中期末土器片



写真17 岩洞湖K遺跡第1地点 緩斜面に遺物分布



写真18 岩洞湖K遺跡第2地点 方形の古代竪穴確認



写真19 小石川遺跡東未登録地点 平坦面の一部に遺物分布



写真20 小石川遺跡東未登録地点 黒色土露出部に遺物分布



F遺跡第2地点出土剥片

写真21 採集資料(抜粋)